TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

実を結ぶ信仰 コロサイ信徒の土台：祈りによって生きる
コロサイの信徒への手紙 1:9-14

2024年1月27日 & 28日
ジェシー・マーク・セザリオ 牧師

オンラインで礼拝している皆さん、TBC ウェストトウキョウ、TBC 三郷、福岡インターナショナル教会、スヴァおよびトンガバプテスト教会の皆さん、こんにちは。
主の恵みがみなさんと共にありますように。

コロサイの信徒への手紙 1:9-14

9 そういうわけで、私たちも、このことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り、願っています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と洞察によって神の御心を深く知り、10 主にふさわしく歩んで、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善い行いによって実を結び、神をますます深く知るように。11-12 また、あなたがたが神の栄光の力に従い、あらゆる力によって強められ、何事にも忍耐と寛容を尽くすように。また、光の中にある聖なる者たちの相続分にあずかる資格を、あなたがたに与えてくださった御父に、喜びをもって感謝するように。13 御父は、私たちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下へと移してくださいました。14 私たちはこの御子において、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。

祈りましょう。

はじめに

今日は「実を結ぶ信仰」のシリーズを続けます。

パウロはエパフラスの報告を通して、コロサイの信徒の信仰のことを聞いたのを思い出してください。エパフラスが彼らに福音を伝えましたが、ある不思議なことに気づきました。神の言葉が自分の故郷の人々の中で生きていることに気づきました。彼らの中には今までとは違う新しい性質があることに気づきました。

彼らは、パウロが述べているように、聖なる者たちに対して愛を示し始めました。彼らの心はかつてある生き方に同調していて、気ままに生きていました。しかし、今はまったく新しい文化を持ち、人に対して善良を行う新しい生き方を持っていました。

それこそが福音の力です。

この手紙の価値を理解する鍵は、パウロは会ったこともないこの新しい教会に対して手紙を書いたことです。パウロはこの見知らぬ人たちに信仰の基本を説明するために何を書くのでしょうか。

あなたなら、聖書もない、牧師もいない新しい教会に何を書くでしょう。どこから始めますか。

そのため、この手紙は非常に重要です。パウロの言動を注意深くみていきましょう。

祈りによって生きる

パウロは聖書がない、牧師もいない状況で、彼らはどうすればいいかわからないことを知っていました。だから神の超自然的な力が第一に、そして何よりも必要でした。つまり、彼らは祈りによって生きる必要がありました。パウロの祈りを見てみましょう。

直接訪問することが出来ないパウロは、彼らのために祈り始めます。パウロが祈ったのはこの教会に必要な本質的なことでした。

まず彼らが必要なことは、あらゆる霊的な知恵と洞察によって神の御心を深く知ることです。

神の御心を知ることをパウロが冒頭に持ってきました。それが重要である証拠です。

当時、大流行した哲学の一つにグノーシス主義と呼ばれる運動がありました。グノーシス主義とはある人々は持っているけれど、他の人々が持っていないユニークで秘密な知識に関するものでした。

グノーシス主義は当時大きな影響力があり、教会に付きまとう病気のようでした。

信仰がキリストに基づく真理なら、グノーシス主義は偽りに基づく反真実でした。

信仰がキリストであるならば、グノーシス主義はこの世でした。

実際ギリシャ語のグノスティコス（gnostikos）という形容詞は「認知的」という意味です。

認知的とはどういう意味でしょうか。「Woke（目覚めている、悟っている）」という意味です。そう、グノーシス主義は今日も新しい形で健在で人気です。

つまり、「Woke（目覚めている、悟っている）」であることは、パウロの時代にも、現代と同じように大流行していました。その人の目を開かせるという魅力がありました。しかし実際には、彼らを暗闇に引きずり込んでいました。

パウロはそれにどう対処したのでしょうか。

パウロのこの反真理に対する最初の防衛線は祈りでした。

パウロは防衛のために何を祈ったのでしょうか。神から与えられる真の知識です。

彼らの心は福音によって真理に開かれました。彼らは光の元に来ました。しかし、彼らの心が堕落し、混乱してしまうことはまだありました。

クリスチャンの戦いはいつも心の中にあります。私たちはここに神の真の知識を必要としています。

しかし、この世も真理を必要としています。

だからこそ、私たちには伝道する人が必要です。私たちは、福音と真理を宣べ伝えることを恐れない、行く所どこにでも光を持って行く神の人が必要です。

皆さん、福音を喜んで宣べ伝えていますか？

福音を宣べ伝えることが禁止され、福音を宣べ伝えることで罰せられる時が来ますし、もう来ています。だから今の平和な時代の間、戦いが来る前に、御言葉を宣べ伝えるべきです。

真理を宣べ伝え、御言葉を宣べ伝えましょう。

残された時間はあまりありません。言論の自由は既に怪しく薄暗くなっており、これからますます暗くなります。そして手遅れになる時は来て、光が消えてしまうでしょう。私達はまだ光がある内に働かないといけません。

逆襲

コロサイにあったグノーシス主義な教えに対抗するために、パウロは彼らが主から直接、主の御心の知識を与えられるよう祈っています。反真実が徐々に自分の内に入ってしまう前にです。

そして、パウロが二つの視点から神の御心を知ることが出来るように祈っていることに注目してください。一つは知恵により、もう一つは霊的な洞察によります。

ここで、時代を超えて多くの人々が失敗してきました。

何かが真実で正しいかを知るには、天からの知恵が必要です。人間の知恵ではどうにもなりません。神の恵みによってそれが与えられたかどうかを知るためには、主からのみ与えられる霊的な理解が必要です。

人間にはこの二つのシグナル（知恵と霊的）を常に感知するセンサーを持っています。何かが真実で正しいように見えても、本当はそうでないかもしれません。正しいかどうか知るには神からの知恵が必要です。

新しく発見された事実が間違っていた場合、完全に混乱してしまうでしょう。霊的なものも同じです。

神に属していない何かと霊的なつながりを持つとあなたは混乱します。大きく混乱します。

本格的な妄想や錯覚は、誤った真実感と悪魔的なものがついてきます。

新しい親友、新しい恋人との悪い関係のようなものです。最初は新しさとウキウキした気持ちに動かされますが、最終的にその関係を始めた時よりもあなたはもっと悪い状態になります。

こういった危険を真剣に受け止めないと、自分に起きていると気づきません。または、理解出来ないのでお手上げと思い、受け入れてしまうかもしれません。このように妄想や錯覚に加わってしまいます。

そうなると教会の一部と感じなくなります。教会から離れ、別の教会に行くかもしれません。

そしてその教会もダメだと思ってしまいます。走って、走って、走り続け、ついに真理から離れてしまいます。

適応

だからこそパウロは、私達がする事すべてを祈りと識別力から始める必要があると言いました。パウロは同じ祈りをフィリピの信徒に対しても祈りました。この世はあざむきに満ちた闇の世界です。祈りなしでは、この世で人生を歩むことは出来ません。

あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を造り変えていただき、何が神の御心であるのか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるのかをわきまえるようになりなさい。
ローマの信徒への手紙 12:2

私達は祈らないといけません。私達は識別力をもたないといけません。

ヘブライ人への手紙 5:14
固い食物は、習慣によって善悪を見分ける感覚を鍛えられた、大人のためのものです。

大きな事のためにも小さな事のためにも祈らないといけません。小さな事の方が、思っている以上に大きな影響を与えることがあります。小さな事に一番騙されやすいかもしれません。それがあなたへのもっと大きなあざむきへの入り口となり、真理が見えなくなってしまいます。

例

一年ほど前、息子と 2 人で時間を過ごす時がありました。息子に映画が観たいかと聞いたら、「いいよ」と言いました。

アマゾンの無料ビデオで何が良いかなと思って探していたら、私が昔とても好きだった映画がありました。それはスーパーヒーローの映画で、映画観覧年齢制限は PG-12 の映画でした。息子にとっても十分クールだろう。PG-12 なら大丈夫だろう、と。

映画が始まって 5 分も経たないうちに、背後でかなり悪いことが起こっていることに気付きました。

同時に次のような考えが浮かんできました。「これは 90 年代のイントロシーンだ。ずっとこうなわけがない。え、これまでこの悪い内容に全く気付かなかった。どうしてあれが OK だったんだろう。息子にとってこれでいいのだろうか。」

そして息子の目を見て、何が起きているのか気付いていないことを確認しました。そしてもうこの映画を見るのはやめようと思いました。

しかし、停止ボタンを押す前に、刀、ナイフを使った驚くほどの戦闘シーンが始まりました。つまり、全くもって家族向けではありませんでした。この時点で私はショックを受けていました。

息子は私を見て、私も彼を見ると、彼の顔にもショックな表情が浮かんでいました。

私はすぐに止めてこう言いました。「こんなシーン全く覚えていなかったよ。昔は最高にかっこいい映画の1つだと思っていたんだ。」

そして息子は彼が主にあってどれだけ成長したかを表す言葉を私に言いました。「その時、父さんはそう思ったかもしれないけど、もう違うんだね。父さんは今、クリスチャンだから。」

息子がそのような識別力を持っていることを私は感謝しています。しかし、救われる前の若い頃の私にはありませんでした。だから私達には識別力が必要です。私は過去にその中に取り込まれていました。

だから私達は祈らないといけません。何が私たちを堕落させるのかを、主が示してくださるように祈らないといけません。戦いは私たちの心の中、私たちが何をどう理解するかの中にあるからです。

私達にはそのような識別力が必要です。

そのような識別力を持つために知恵と霊的洞察を求める祈り方を知っていますか？

そのような祈りの中にないものを教えます。たくさんの言葉はありません。あなたの意見はたくさんありません。友人のアドバイスもありません。たくさんの無関係な聖書の御言葉もありません。答えをくれるマジック 8 ボールのおもちゃのような回答はありません。

知恵と霊的な洞察を求める祈りはそのようなものではありません。祈りはゲームではありません。

そのようなことをすべて脇に置いて、真剣になって、主から答えを求めないといけません。主に心を導いてもら

うのです。キリストはこの世で最も偉大な使命のためにどの弟子を選ぶべきか一晩中祈られました。

イエスはヨハネ 16:13 でこう言います。「しかし、その方、すなわち真理の霊が来ると、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれる。その方は、勝手に語るのではなく、聞いたことを語り、これから起こることをあなたがたに告げるからである。」

自分がずっと話していたらどうして聞くことが出来るのでしょうか。

ここで質問です。聞いている時に、正しい答えを得たかどうか、どうやってわかるのでしょうか。そしてもし答えが与えられなかったらどうするのでしょうか。

もし神から答えを与えられたら、それがわかるでしょう。しかし、そうでない場合でも神が既に解決してくださったと信じてください。あなたは祈りました。自分のするべき事をしました。前に進んでください。神はそこにいます。神はあなたと共におられます。前に進んでください。

さて、パウロがここで語っている神の御心の領域はとてもはっきりしています。

神の御心を知る目的は何でしょうか。それは **10 節**にあるように、「ふさわしく歩む」ことが出来るようになることに根ざしています。

ふさわしく歩む

「ふさわしく歩む」というのは興味深いです。

私達はある意味、自分に何の価値もないことを知っています。十字架を考えると私達に出来ることは何もありません。

私達の罪の負債を考えれば、私達に出来ることは何一つありません。全てはキリストです。

しかし聖書は、ふさわしく歩みなさいと言います。神を喜ばせることが出来るようにということです。

これはキリストが私達の内に住んでくださるときに経験する変化です。

キリストを信じる前の私達は、何をしても神を喜ばせることが出来ませんでした。神の御心や、神が私達に何を望んでおられるかについて何もしりませんでした。

しかし今、主の御霊が私達と共に働いてくださることによって、私達は神を喜ばせることが出来るようになってきました。

どのように実を結ぶことによって神を喜ばせることが出来るのでしょうか。

パウロはテトスへの手紙の中で、テトスにこう言っています。

「私たちの仲間も、差し迫った必要のために、率先して良い行いをすることを学ぶべきです。実を結ばない者とならないためです。」**テトスへの手紙 3:14**

良い行いをすることは、実を結ぶ者としての大きな部分です。主のために生きる私たちが大切にすることです。

あなたは実を結んでいますか。

私達の多くが実を結ぶこと、人とつながることにさえ問題を抱えています。

スモールグループの価値

だからスモールグループに属することが重要なのです。クリスチャンのスモールグループと密接に関わって生きることは、クリスチャンが生きる上で普通のことです。初代教会は、始まった当初からスモールグループで集まっていました。それは 12 人からなるスモールグループで始まりました。

スモールグループの目的の1つは、自分が助けられたり、他の人を助けたりすることです。神に喜ばれるよう、神があなたに望んでおられる生き方をするためです。

もしスモールグループに入っていないなら、神の教会に人生を捧げる機会はあまりありません。

あなたはスモールグループに入っていますか。1 人でいると、実を結んで分かち合うことは難しいです。

実際のところスモールグループとは、毎週 1-2 時間、他の人々と交わり、聖書から学んだことを分かち合い、互いのために祈り合い、互いに助け合う時間のことです。

スモールグループは重荷であるべきではありませんが、多くの人がそう感じてしまっているようです。イエスが「安息日は人のためにあるのであって、人が安息日のためにあるのではない」と言われたことを思い出してください。スモールグループはあなたが助けられ、励まされ、元気をもらうためにあると信じています。

しかし、他人が結んだ実を受け取れるのは、自分が実を結んで他人に与えないといけません。

聖書には「働こうとしない者は、食べてはならない」**テサロニケの信徒への手紙二 3:10** とあります。

このような性質を持てないスモールグループは、学びが多すぎて大変になっていることが多いです。しかし **10節**の最後の部分をよく見てください。そういう場合は逆になってしまっています。知識は実の後に与えられます。神についてもっと知るようになるためには実を結ぶことが優先されます。リーダーはそのことをよく覚えていてください。

アウトラインの裏にスモールグループに参加する方法が書いてあります。

また TBC のメンバーとして、スモールグループを始めたい方もいるかもしれません。興味がある方は、私や他の牧師にお声かけください。

人生は簡単ではないということは私達皆が同意出来ると思います。時に私達は野球でカーブボールを受けるよう、思いがけないことがいくつも起きたり、全世界が自分に敵対しているように感じたりすることさえあります。

秘密を教えます。実際に世界は私達に敵対しています。

この世は真の、生ける神の友ではありません。そしてこの世は、真に神の子である人達の友でもありません。この世は、神と神に属する全ての敵です。

敵は、揺るがない結婚生活、揺るがない家族、揺るがないスモールグループも、神の性質を表す人々をも望んでいません。

これらすべては、ミニストリーを生むような実の結びかただからです。

しかし、パウロは霊的な真理を私達に教えてくれます。神には力があること。そして、神の力は、特にそのような反対勢力に対して使われるものであり、あなたに何が起ころうとも、神に似た人格を生み出す忍耐をもって前に進み続け、キリストにある希望から来る喜びを経験することが出来きます。

12-1 節 希望はこの世のものではないこと

しかし、この希望はこの世のものではありません。実は、この手紙を受け取るコロサイの人や私達が受け取る相続は、光の中にいる聖徒たちが受け取る相続財産と同じものです。そうです。彼らと私達が共有している相続財産とは永遠の命です。

この相続財産を受けるために、神によって私達がふさわしい者としてくれました。私達が自分でそれを受ける資格を得ることや、ふさわしい者になることはできません。奪われることが出来るものでもありません。あなたはそのために造られたからです。

パウロは、キリストが私達のためにすでに成し遂げてくださったことについて語ります。私達は資格を与えられ、救い出され、まるでベルトコンベヤーに乗せられているように運ばれて、御子の支配する神の御国に入れられたようです。もう既に、です。

では、神があなたを御子の支配する神の永遠の御国から追い出すことは理にかなっているでしょうか。

神が、「今日、罪を犯したから君はここから出て行くんだ！」とでも言うかのようなことです。それは良い知らせとは言えません。

今、これを聴いておられる方の中には、このようなことが私達にも起こりうる、あるいは起こったと信じている人がいると思います。まるで私達が皆、サウル王であるかのように。これは真理からかけ離れています。

聖書にある金持ちの若い議員の話を考えてみましょう。

彼の問題は何だったのでしょうか。

金持ちの若い議員が主イエスに「善い先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と尋ねた時、そうです、質問自体に問題がありました。

そして彼はまさにその問題に陥りました。私達がそうであるようにです。彼はイエスに対して、自分がよくやってきた素晴らしいことを全て伝えます。

彼はイエスにこう言いました。私はここまでやったので、それに値しますよね、と。しかしそうはいきません。

イエスは、彼に問題を伝えたくて、難しい問いをします。イエスは言います。永遠の命を得るに必要なのは完璧さです。若者はそれに値しません。資格を得るためには、自分の持っているものを全て売り払い、イエスに従わないといけません。そうするば、彼は完全な者になります。

この若者は金持ちで若いということは、財産を自分の父親から受け継いだということを意味しています。相続財産とはそのままです。自分で何かすることはありません。

そして今、彼は天の父から永遠の命を受け継ぐ方法を知りたがっています。この話は皮肉に満ちています。彼は父親から富を全て受け継いだのにもかかわらず、今、それを手に入れるために何かをしないといけないと思っています。永遠の命を受け継ぐためには何もすることはできません。ただイエスを信じるだけです。これが福音です！

ローマの信徒への手紙 6:22、23
22: しかし、今や罪から自由にされて神の奴隷となり、聖なる者となるための実を結んでいます。その行き着くところは永遠の命です。23: 罪の支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠の命なのです。

私たちの多くはここでつまずきます。真理に立っていないからです。真理に頼っていないからです。

私達は恵みにより、信仰を通して救われたのです。それは、あなたがたの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるのではありません。それは、誰も誇ることがないためです。(**エフェソの信徒への手紙 2:8,9**)

それを信じなければ、神の前に正しくされた者として神に祈り求めることが出来ません。代わりに、確信がないまま、神が不可能を可能にしてくださると信じないまま神の元に行き、祈ります。自分の成果によって自分を判断しているからです。

あなたは正しい人の祈りを持っていません(**ヤコブ 5:16**)－自分の正しさが不十分であり、神があなたのために不可能なことをしてくださると信じていません。イエスが金持ちの若い議員の話で最後に言ったことです。あなたは、自分は値する者だと信じていないからです。

正しい人のとりなしの祈りは、大いに力があり、効果があります。そして、神は何でもできます。このことを信じますか。

そうでなければ、すべてのことに不安を感じ、確信を持って自分の願いを神に伝えることができません。(**フィリピ 4:6 を逆から見るとこうなります。**)

しかし聖書はこう言っています。何事も思い煩ってはなりません。どんな場合にも、感謝を込めて祈りと願いを献げ、求めているものを神に打ち明けなさい。
フィリピの信徒への手紙 4:6

祈りの中で私達は願い求めることが出来ます。キリストにより与えられた義を信じる信仰、そして自分の実がどんなに悪くても、それを知りながらも、神が祈りを聞いてくださると信じていますか。

ヤコブは、「正しい人の執り成しは、大いに力があり、効果があります」と語った後すぐに、私たちと同じような性質を持つエリヤについて語っています。その性質とは何でしょうか。エリヤが人間だったということです。私達と同じように、彼は善人ではありませんでした。

しかし、彼の祈りは力強く、結果として実を結びました。それは彼がどういう人だったから、何者(預言者)だったからということではなく、彼の神への信仰によるものでした。

キリストの恵みの自由の中に立ち、キリストの血潮による贖いの義を信じましょう。神が不可能を可能にすることが出来る方だと信じましょう。そして祈りがどのようになるか体験してください。

結論
神は私達を見捨てたりはしません。神はそこにいてくださり、完全なる父として私たちの面倒をみてくださいます。

イエスは言われます。「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」**マタイ 6:8**

ですから最も重要な質問はこれです。神はあなたの父ですか。

もし神があなたの父ではないなら、あなたには求める権利もなければ、永遠の命をもって、御子イエスの御国にいれてもらう権利もありません。

ヨハネの福音書１章には、イエスは自分を受け入れた人、その名を信じる人々には、神の子となる権利を与えたと書かれています。Yahweh（神）は救い主。それがイエスです。

神の国に入れられることで、その権利は与えられ、今この時でも与えられています。

それによって、この世とは異なる新しい性質が与えられます。

それによって、神と共に過ごす永遠の場所という相続財産があたえられ、あなたはそこの市民にされます。

キリストの権威をもって、この地で福音を宣べ伝える、キリストの大使とされます。

神に、父として話す権利が与えられ、正しく求めることが出来る権利を与えてくれます。

そして私達は、キリストの血潮による贖い、すなわち罪の赦しによって、これら全てを与えられます。

神の子になりたいと願うなら、イエスを信じてください。イエスは私たちのために遣わされた方であり、私達を救ってくださる方です。今日、イエスを受け入れてください。

追伸
もう1つお話ししたいことがあります。私達の多くは、イエスが愛し、イエスの所から立ち去った金持ちの若い議員がどうなったか心配しています。マタイは彼をギリシャ語で若者というネアニスコスと呼んでいます。

聖書にはもう １ ヶ所、若者、ネアニスコスが言及されている所があります。

マルコ 14:51-52 にはイエスに従うネアニスコスが出てきます。一人の若者が、素肌に亜麻布をまとってイエスに付いて来ていたのですが、人々が捕らえようとすると、亜麻布を捨てて裸で逃げてしまったのです。

つまり、彼は財産を持たず、支配者を恐れ、イエスに従っていた若者でした。

神に不可能はないのです。

祈りましょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg0524jp

★クラス 301
自分の賜物発見クラス
1月 28 日（日）1:00pm – 5:00pm
参加条件: クラス 101&201 を修了した方

★クラス 401
人生の使命を発見する
2 月 18 日（日）1:00pm – 5:00pm
参加条件: クラス 301 まで修了した TBC 教会員
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1. 日本語字幕オペレーター

月 1～各礼拝の時間の日本語字幕のページを矢印キーで押していく作業。コンピュータースキルはいりません。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2. 日本語訳字幕作成

月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1, 2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

3. 週末礼拝メッセージ翻訳

1 か月半に 1 度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
スキル：英語と日本語が堪能な方

4. 日本語訳レイアウト&印刷（女性募集）

月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の簡単な操作ができる方。英語のスキルは必要ありません。

*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org